

## 災害の時も安心してごはんが食べられる！

## ✓ SDGsラジオを読んでみよう！

考えてみてください。もしも今日、ごはんが食べられなかったら…。地震や大雨などの「自然災害」が起きると、道路が通れなくなりたり、電気が止まったりして、食べものがとどかなくなることがあります。そこで、ごはんでみんなの健康を支える会社「日清医療食品」では、もしものときでも病院や保育園、お年寄りのいる施設などに食べものをとどけられるようにしています。たとえば、前もって食べものをたくさん備えておいて、災害のときはそれを使ってごはんの準備をしたり。さらに、災害のときには道路が通れなくなることもあるので、ヘリコプターで食べものを運ぶ練習もしています。どんな日にも、ごはんをとどけられるように。いざというときに食べるものがあるって、安心ですよね。みなさんのおうちでも、もしものときのごはんに備えることができます。学校のお友だちや先生、そしておうちの人と、話し合ってみましょう。

## ✓ SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：地震とこわれてしまった道路のイメージ

地震や大雨などの自然災害は、いつ起きるかわかりません。災害が起きると、道路が通れなくなりたり、電気が止まったりして、食べものがとどかなくなることがあります。そうなってしまうと、病院やお年寄りの施設、幼稚園や保育園で、患者さんや子どもたちがごはんを食べられなくなってしまいます。そんな、もしものときでも食事をとどけることができるよう、ごはんでみんなの健康を支える会社「日清医療食品」では、社員の人たちや、いっしょに仕事をしている会社などと協力しながら、日ごろからいろいろな準備をしています。

画像参照：日清医療食品が行っている災害の備え  
(日清医療食品公式HPより)

日清医療食品では、電気や水道が使えなくなったときでもごはんをつくれるように、長く保存できる「備蓄食」という食べものを病院や施設に置いています。また、日本のあちこちに倉庫をつくり、食べものだけでなく、災害のときにつかう「非常用品」も備えることで、どこで災害があってもすぐに必要なものをとどけられるようにしています。さらに、道路が通れないとのために、ヘリコプターで食べものをはこぶ練習もしています。ほかにも、社員の安全をばく確認できるしくみを整えたり、電気が止まっても使える電源を準備したり、「災害が起きたときにはどうすればいいか?」がわかる本を用意したり。このように日清医療食品はさまざまな取り組みで、いざというときにも人々が安心してごはんを食べられるように備えています。

## ✓ キーワード

## 自然災害

地震や台風、津波などで建物や道がこわれたり、人がけがをしてしまうなどの被害が出ることです。ふだんの生活ができなくなることがあります。

## 備蓄食

災害のときに備えてあらかじめ用意する、長く保存できる食べもののことです。

## 非常用品

災害のときに使う道具や生活に必要なもののことです。ライトや水、乾電池など、すぐに役立つものがふくまれます。

## ✓ 対象ゴール



## みなさんにできること！

## もしものための「ごはんの備え」を考えてみましょう。

## おさらい

● 災害が起きると、食べものがとどかなくなってしまうことがある。

● 「日清医療食品」では、どんなときでもごはんをとどけられるように、いろいろな準備をしている。

● いざというため、ふだんから備えておくことが大切。

## メモ



SDGs ラジオ